

自己評価報告書  
(令和6年度)

学校法人 山野学苑  
山野美容専門学校

## 1. 教育理念・目的・育成人材像等

### (1) 理念・目的・育成人材像は定められているか：

- ・ 創立者、山野愛子が提唱した美道五大原則  
「髪、顔、装い、精神美、健康美」を基本理念とする。
- ・ 本校初代校長山野愛子が昭和初期から継続した美容教育経験を踏まえて培った、「髪、顔、装い、精神美、健康美」の五大原則に基づく「美道」の追求・実践を建学の精神とする。その精神に基づく「美容に関する知識及び技能を教授し併せてその品性を陶冶し徳性を涵養して有為の美容師を養成すると共に、美容の蘊奥を究めようとする美容師の研究を指導すること」を学則により教育目的として定めている。

### (2) 職業教育の特色は何か：

本校は、「美容専門課程」及び附帯教育として「美容通信課程」の2課程を設置している。「髪」「顔」「装い」「精神美」「健康美」の「美道五大原則」を基に、美容の理論と実践を通して教育の向上をめざし、常に変わりゆく多様な文化のなか、学生を美容業界のリーダーに育てるとともに、生涯の学びへと導くことを教育目標として、以下の点を教育の特色としている。

- ・ 永年の歴史と伝統に基づいた美容教育  
令和6年度に創立90周年を迎えた永年の歴史と、伝統の上に培った美容教育の提供。
- ・ 美道の理論と実践  
美容業の使命の一つが、より優れた人間美の創造、実現にあることを良く理解させ、この使命の達成のために必要な美的感覚を身に付け、これを洗練し、芸術的な表現力を養う。特に、精神美及び健康美が美容を実践する上で重要であることの深い認識の醸成。
- ・ 教育環境、施設の充実  
公益財団法人理容師美容師試験研修センターが主催する国家試験実技試験会場として、本校の実習室を提供しており、他の美容師養成施設にない環境で通常の教育を受けることの優位性。
- ・ 社会のニーズ等を踏まえた教育の実施  
常に業界のニーズを踏まえ、現場で活躍する美容師を講師として招聘するなど、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムの編制。
- ・ 実践的な選択制実習授業の推進  
美容技術の基礎を身に付けた上で、学生自身が望む将来の自分に必要な授業（群）を選ぶことで、一人ひとりに専門性の高い技術と知識を習得させる。
- ・ 少子高齢化に対応した美容教育の推進  
美容所における高齢者及び障がい者等の接客対応、外出が困難な高齢者等に対する出張美容等の意義を重視した学び（美容福祉）の推進。

### (3) 学校の将来構想を抱いているか：

- ・ 本校は、美容福祉を日本で初めて提唱した美容学校であり、あらゆるマイノリティに対しても分け隔てなく美容サービスを提供できる人材を育成し、誰もが活躍できる世界の実現に向けて教育事業に取り組んでいる。
  - ・ 山野美容講習所の開学から始まった山野美容専門学校の 90 年間は、日本の高度成長期を背景として、美容師の社会的地位をはじめ、美容室数の増加や形態の多様化、美容師数の増加、美容技術の多様化等々、美容業界が爆発的に膨張した幸運な時代であった。そのような時代にあって、本校は初代校長山野愛子のリーダーシップのもと、美容界に対して常に影響を与え続けることにより、美容界の主導的立場となり、美容界をけん引してきた。本校が、引き続き美容界の主導的な立場であり続けるために、これらの社会環境や時代背景に合わせた、美容界の在り方を提言し実践することで、美容界のパイオニアとしての地位を確立していきたい。
- (4) 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか：
- ・ 「サンクスデイ」と称した保護者・高校関係者向けイベント等で周知している。
  - ・ 「学生便覧」を入学前に配布し、内容を理解した上で入学をいただいている。
  - ・ 学外への周知は、ホームページや学校案内等にて行っている。
- (5) 各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか：
- ・ 個別のニーズというよりは、業界全体の振興に向けて新しい方向性を提示している。
  - ・ 教育課程編成委員会を年に 2 回開催し、外部委員の先生方から意見をいただき、授業に反映している。

## 2. 学校運営

- (1) 運営方針が定められているか：
- ・ 定められている。運営方針については、年度ごとに策定する「事業計画」に定めるほか、毎月定例で実施している月初朝礼での理事長方針、校長ミーティング等において、決定している。
- (2) 事業計画は定められているか：
- ・ 毎年、3 月に「事業計画」を策定。評議員会の意見を聴取した後に理事会で審議の上定めている。
- (3) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか：
- ・ 山野学苑組織規程により明確化されている。
  - ・ 教育職員と事務職員、技能労務職員を置き、各職務を遂行することにより効率的な運

営が行われている。

- ・ 教育職員、事務職員の両者を横断する「委員会組織」によって、さらに有機的な運営を目指している。
- ・ 事務局を設置し、事務組織を構築している。事務局には事務局長を長として、総務課、教務学生課、広報課、キャリアサポートセンター室及び健康相談室を設置している。各部署の事務分掌等については、「山野学苑組織規程」第4章山野美容専門学校の事務組織及び事務分掌により明確となっている。事務局員は、各部署の業務遂行に必要な知識・技能を有しており、また、識能を十分に発揮できるように業務を分担している。

(4) 人事、給与に関する規定等は整備されているか：

- ・ 教職員給与規程、定年規程、退職金規程等を整備している。

(5) 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか：

- ・ 上記(3)に準ずる。
- ・ イン트라ネット、クラウドサービス（cybozu、google）等により効率化。

(6) 業界や地域社会等に対するコンプライアンス：

- ・ 美容師の地位向上・信頼向上を掲げており、関係法規を徹底遵守している。
- ・ コンプライアンスを法令遵守だけでなく、倫理観、公序良俗など含めて再認識して特に法令、就業規則及び企業倫理・社会規範に着意して業務を推進している。

(7) 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか：

- ・ 学校が取り組んだ教育活動については、ホームページで情報公開をする一方、SNS等でも教育活動を紹介し、情報提供を行っている。

(8) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか：

- ・ 「情報の一元化」「業務の効率化」を実現する総合情報システムを導入済み。  
(株)システムディ Campus Plan
- ・ 上記(5)等。
- ・ 教職員もタブレットを使用し「Google」システムを情報共有のプラットフォームとして活用している。
- ・ クラウド勤怠管理システム「Touch On Time」を導入し、勤怠管理の業務改善だけでなく、勤怠の見える化や「働き方改革」推進に取り組んでいる。

### 3. 教育活動

(1) 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか：

- ・ 美道五大原則に則りカリキュラムを構築している。

- ・ 「4つのC」と呼ぶ継続的な自己実現手法に則ってシラバスを構築し、授業を実施している。
- (2) 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか：
- ・ 「学生のニーズ」寄りだった選択カリキュラムに、外部有識者からの「社会のニーズ」を踏まえた教育を実施している。
- (3) 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか：
- ・ 美容師養成施設指定規則等に則り、体系的且つ独自性のある編成としている。
- (4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか：
- ・ 美容法規に則り実施している。
  - ・ 令和6年度より、入学直後約2ヶ月にわたって「キャリアデザイン」の授業を行っている。キャリア教育プログラムの開発に実績のある「株式会社リアセック」による社会人基礎力評価テスト「PROG」を実施し、入学当時の社会人基礎力を可視化し客観的評価の指標を設けた上で、2年間の美容専門学校生活でいかにスキルアップを行っていくか、卒業後に継続的に成長するには今から何ができるのか、グループワークを重ねながら自身で考えアウトプットできるように指導している。
  - ・ 教育課程編成委員会を年に2回開催し、外部委員の先生方から意見をいただき、授業に反映している。
- (5) 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか：
- ・ 新カリキュラム移行に向けて、令和2年度から委員会を立ち上げ、学生へのアンケートや教育課程編成委員会の審議を重ね、令和6年4月から新カリキュラムで各授業を開講した。
- (新カリキュラムの概要)
- 以下の6項目に分類する授業カテゴリにおいて、カリキュラムを刷新した。
- ア. 基礎プロコース1（1年前期）
- 美容の仕事をする上で大切な技術（カット、カラー、メイク、ヘアアレンジ、ネイル）の基礎を修得させる。
- イ. 基礎プロコース2（1年後期）
- 学生自身が選択した「自分が将来、追求を希望する分野」の技術を極める。
- ウ. テクニカルプロコース（2年）
- 美容の基礎を身に付けた上で将来の自分に必要な授業（群）を選ぶことで、一人ひとりが専門性の高い技術と知識を修得させる。授業の多くは、美容業界の第一線で活躍する外部講師が担当する。
- エ. 美容福祉

必修科目「美容福祉基礎」では、「身だしなみ」「おしゃれ」が高齢者や障がい者を有する要介護者の人間性を尊重し、自立した豊かな生活（QOL 向上）に必要な基礎力に必要であることに着目している。人を美しくする理美容がその一翼を担うことを確信し、「理美容福祉」という言葉を創生して教育を推進している。

また、「カウンセリング」の講義・演習（講師は臨床心理士・産業カウンセラー）により、傾聴、質問、提案等の基本的なコミュニケーション技術を理論と実践で学ぶ。

#### オ. キャリアデザイン教育

入学後間もない時期に開講。美容学校新入生のイメージと美容業界が求める人材との間に一致する点や差異を理解するとともに、社会人全般に必要な基礎力を理解し身に付けさせる。一人ひとりが自らのキャリアプランを考える上でヒントを見つけられるように卒業生の実体験インタビューなどを取り入れた授業を行う。

#### カ. 国際教育

国際化の進展に伴い、都心を中心に国内の多くの美容室を始め、ネイルサロンやアイラッシュサロンには英語圏からのお客様が来店されるため、「サロンコミュニケーション」の授業課目を開設して、サロンで使用する英会話や接客を学ぶ。

- ・ 教育課程編成委員会を開催して、企業等の要請等を十分に活かしつつ専門課程の専攻分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するため企業等の意見を反映して、実習、実技の授業を行っている。

#### (6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか：

- ・ 上記(4)プランの中には、インターンシップ教育を内包する。

#### (7) 授業評価の実施・評価体制はあるか：

- ・ イン트라ネットによるアンケートなどを行っている。

#### (8) 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか：

- ・ 学校関係者評価委員会の評価を年1回必ず受けている。

#### (9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか：

- ・ 美容師関係法令に遵守しており、明確である。
- ・ 成績は数値にて評価、出欠席も厳密に記録されている。再試験・追試験・補習などの体制も明確な基準のもと運用されている。
- ・ 「山野美容専門学校 成績判定基準」を設け、課目ごとにこれらを基に評価を行っている。履修科目の成績は、試験、追試験、または再試験の成績を主とし、出席状況、平常の学習の判定基準を明確にしている。

#### (10) 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか：

- ・ 美容師国家資格取得は全学生の必達目標として掲げている。またそれを前提としたカ

リキュラムである。

- ・その他、各種資格については、入学から卒業まで段階的に上級資格を取得できるようにカリキュラムを配置している。

(11) 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる条件を備えた教員を確保しているか：

- ・美容師養成指定規則、専修学校設置基準等に則った教員を採用している。
- ・多彩なキャリアを持った人材を採用している。

(12) 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・業務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか：

- ・上記（11）に準ずる。

(13) 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか：

- ・上記（11）に準ずる。
- ・定期的な技術研修を実施。
- ・教員研修には特に注力している。

(14) 教員の能力開発のための研修等が行われているか：

- ・上記（11）に準ずる。

#### 4. 学修成果

(1) 就職率の向上が図られているか：

- ・就職希望者の内定率は100%である。
- ・就職後の離職率の改善を目標としてキャリア教育を充実していく。

(2) 資格取得率の向上が図られているか：

- ・美容師国家資格については、90%を超える合格率を維持している。
- ・各種資格については、希望する学生には専門家による徹底指導を行い、合格率向上を図っている。（ネイル、メイク、着付け、色彩検定、接遇検定 等）

(3) 退学率の低減が図られているか：

次に挙げる 5. 学生支援と重なる部分が多いが、以下の点を重視して退学者の低減を目指している。

- ・3. (4)に挙げたキャリアデザインの授業は、入学直後に2年間の明確なビジョンをもたせることで、退学の大きな原因であるミスマッチの解消を狙いとしている。
- ・ユニット担任制を設けている。

各クラスに担任は配置されているがユニット内で全学生の情報は共有され、学生の資質や性格等に応じて柔軟に指導、対応ができるようにしている。問題を抱えた学生が相談する相手がいない、孤立している、という状況が発生しないよう、常に複数の視点から目を配ることができている。

- ・ 学生指導事務員を専任し、日々、退学防止に努めた。
- ・ 5. (2)にも挙げるが、スクールカウンセラーを配置しており、特に精神的な悩みを抱えた学生を対象に専門資格を備えた相談員が適切に対応できる体制を整えている。
- ・ 進級時にクラス替えを行い、新しい担任、クラスメイトと交流をもつことで学生一人ひとりの個性とコミュニケーション能力を伸ばし、学校生活を充実させるよう取り計らっている。

(4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか：

- ・ 卒業生は業界で広範囲にわたって活躍している。始業式や終業式には、活躍する卒業生による講演や美容ショーを行っている。学生は観覧や質問などを通して、身近な成功のモデルケースとして視野を広げることができる。
- ・ 在学生の様々な活動は、担任がスプレッドシートに入力して学内情報として共有し、主なものはダッシュボードに掲載して Web 上で保護者にも共有している。また、卒業式に表彰を行い、その活躍を評価している。

(5) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか：

- ・ 離職率は大きな課題であり、重要視している。
- ・ キャリア教育を軸としたカリキュラムは、これに対応するものである。

## 5. 学生支援

(1) 進路・就職に関する支援体制は整備されているか：

- ・ 就職支援・進路支援を目的としたキャリアサポートセンター室を設置して、職員 3 名が常駐し専門指導を行っている。
- ・ 担任教員とキャリアサポートセンター室が連携して、進路決定まで継続的なサポート体制を構築している。
- ・ 1 年次から授業として指導を行っている。
- ・ キャリアサポートセンター室では地域別ファイルに美容室（サロン）情報や求人情報を提供するとともに、Google Classroom を利用して求人、進学、各種就活イベント等及びインターンシップ等の情報を配信するとともに、履歴書対策、面接対策など学生一人ひとりに寄り添った支援を行っている。
- ・ 令和 6 年度より実施している 3. 教育活動 (4) におけるキャリア教育授業の結果を、担任・キャリアサポートセンター室で共有し、学生との面談に役立てている。学生が離職することなく、自身のキャリアプランを意識して就職できるよう努めている。



(2) 学生相談に関する体制は整備されているか：

- ・ ユニット制による教員ネットワークにより、学生が教員と相談する際の間口を広げ、情報共有をスムーズにしている。
- ・ 学生指導、厚生補導等の生活支援は、主に教務学生課が担っている。
- ・ 健康管理に関することは、健康相談室の看護師の資格を有する健康相談員が学生の健康管理と保健指導にあたり、学生の実習による負傷等の応急処置も担当している。
- ・ 心の健康に関するケアやカウンセリングの体制として、臨床心理士および公認心理師の資格を持つカウンセラーが相談に応じている。

(3) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか：

- ・ 提携企業による学資ローンの支援を行っている。
- ・ 学校独自の学費支援制度がある。
- ・ 学費納入については分納である。

(4) 学生の健康管理を担う組織体制はあるか：

- ・ 禁煙指導を徹底して行っている。
- ・ 上記(2) のとおり、健康相談室やスクールカウンセリングの体制を整えている。
- ・ 定期健診を校内で実施している。

(5) 課外活動に対する支援体制は整備されているか：

- ・ クラブ活動は、ダンス部・コンテストクラブ・美齢クラブがある。
- ・ その他の課外活動として、外部の美容イベントやコンテスト等において、スタッフとしての勉強を兼ねた活動や、外国人の方への着物の着付けなどを行っている。参加者は学生から広く募り、活動内容は事前に説明をして理解させた上で、当日は必ず指導教員が同行して支援している。

(6) 学生の生活環境への支援は行われているか：

- ・ 提携学生会館や学生マンションなどの住まいを紹介する体制を整えている。また、遠方から進学するにあたり、経済的な負担を軽減できるよう指定学生会館の紹介をするなどの支援を実施している。

(7) 保護者と適切に連携しているか：

- ・ 不意の欠席等、異変があればただちに保護者と連絡をとる体制ができている。
- ・ 必要に応じて保護者面談（来校、電話、ZOOM 等）を行っている。
- ・ 保護者を招待して技術を披露するサンクスデイや、学苑祭により、さらに保護者の理解を深めていく方針である。
- ・ 保護者のメールアドレスを取得し、必要な情報を共有している。
- ・ ダッシュボードを導入し、出席状況、成績、納入状況等の情報を提供している。

(8) 卒業生への支援体制はあるか：

- ・ キャリアサポートセンター室が卒業後も就職支援を行っている。
- (9) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか：
- ・ 職業に結びつく実践的な知識・技能・技術や資格の習得に向けて、リスキリング・リカレント教育に対応できる体制を構築している。
- (10) 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか：
- ・ 主に首都圏の高校を中心に職業別説明会や模擬授業等を行っている。

## 6. 教育環境

- (1) 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか：
- ・ 十分整備されている。
  - ・ 時代に通用する人材を育むため、ICT 環境の整備と教育を行っている。
- (2) 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか：
- ・ アメリカでの海外研修を実施し、見分を広める機会を設けている。
- (3) 防災に対する体制は整備されているか：
- ・ 定例での防災訓練のほか、危機管理マニュアルを整備するなど、防災体制の整備・強化を図っている。
  - ・ 災害時における東京都の帰宅困難者支援施設として、渋谷区と受け入れ協定を締結している。

## 7. 学生の受け入れ募集

- (1) 学生募集活動は適正に行われているか：
- ・ 適正である。
  - ・ 学生募集の広報活動については、学校案内、募集要項及び各種 SNS を有効に活用し適正に行っている。特に、学校案内においては、カリキュラムをはじめ、卒業後の進路先、海外研修旅行を含めての各種行事、課外活動、美容師国家試験対策授業、目指せる資格名、キャリアサポート、施設・設備について判り易さと共に正確性を優先して記述し掲載している。
  - ・ 各種入試日程及び選考方法については、募集要項で詳細に記述している。
  - ・ 入試説明会を定期的を開催して、入学希望者の不安解消や面接時の対応についてアド

バイスを行っている。

- ・ 学校見学会等の参加者には、都度詳細にわたり説明している。

(2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか：

- ・ ホームページ等にて公表している。
- ・ 高等学校訪問、学校見学、オープンキャンパスにより伝えている。

(3) 学納金は妥当なものとなっているか：

- ・ 妥当である。
- ・ 「東京都私立専修学校設置認可取扱内規」（昭和 51. 3. 11）に則り適正に定めている。

## 8. 財務

(1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか：

- ・ 安定している。

(2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか：

- ・ 妥当である。

(3) 財務について会計監査が適正に行われているか：

- ・ 適正に行われている。
- ・ 「私立学校法」の定めに則り適正に行われている。

(4) 財務情報公開の体制整備はできているか：

- ・ 山野学苑情報公開規程に基づき、山野学苑のホームページで、財務・決算等の情報を広く社会に公開している。（山野学苑 HP アドレス <https://www.yamano.jp/>）

## 9. 法令等の遵守

(1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか：

- ・ 適正である。
- ・ 専修学校設置基準（昭和五十一文部省令第二号）をはじめ各種関連法規の規定を遵守して適正な運営を行っている。また、教職員は、各種コンプライアンス問題の予防のため「学校法人山野学苑コンプライアンス・マニュアル（2023. 11. 14）の第2項「自主行動基準」を行動規範としている。

(2) 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか：

- ・ 情報管理規程及び個人情報保護規程に基づき、適正に管理している。

- (3) 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか：
- ・ 学校関係者評価委員会を開催し、自己評価を評価していただき改善につなげている。
- (4) 自己評価結果を公開しているか：
- ・ 毎年公開している。(ウェブサイト)

## 10. 社会貢献・地域貢献

- (1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか：
- ・ 美容福祉講習会を定期的に行っている。
  - ・ 美容に関するイベントやボランティア活動を行っている。社会貢献を実践することで、美容の魅力を発信するとともに学生が集団活動を通じて、自主性や社会性を身に付け、豊かな人間性を育成することを目的としている。特に、近隣住民を対象とした学生の課外活動としては、渋谷区地域包括支援センターと連携して「美齡クラブ」が中心となって「山野ビューティカフェ」を定期的に行っている。
- (2) 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか：
- ・ 支援している。
  - ・ 上 10. (1) にある「山野ビューティーカフェ」の事前の技術指導、担当教員による指導監督、集客において支援している。事前に地域にポスターを掲示して近隣の方の集客支援を行うと共に、山野学苑の教職員にも周知して、教職員は業務を超えて広く支援が可能な状況。当日の運営は、学生の自主性を重んじている。
  - ・ ダウン症や自閉症などの知的障がいを持つ方たちのビューティーコンテスト「スペシャルビューティージャパン」を支援している。
  - ・ 鳥取県あいサポート運動を支援している。
- (3) 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか：
- ・ 美容福祉について実施している。
  - ・ 高齢者や障がいのある方、車椅子のお客様に適切なサポートを提供できる美容師（福祉美容師）を養成するための公開講座として、「美容福祉技術講習教室」を開講している。美容室への来店が難しいお客様（福祉施設・病院・在宅等）に対しても安全・安心な施術ができるような技術も習得する。現在、多くの現役美容師が受講生として参加している。

## 11. 国際交流

- (1) 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか：

- ・ 国家戦略特区外国人育成事業として、東京都で外国人美容師を雇用する体制が整備されてきている。そのため、留学生の受け入れを継続していく。
- (2) 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続等がとられているか：
- ・ 適切な手続きをとっている。
  - ・ 入国管理局より、「適正校」と認定されている。
- (3) 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか：
- ・ 入学後の留学生に対し、アルバイト等の生活指導を実施している。
- (4) 学修成果が国内外で評価される取り組みを行っているか：
- ・ 海外から美容業界の著名人を招く一方、学生の海外研修も積極的に行っている。
  - ・ ボランティアや国際交流等の社会貢献に関する学生活動をおこなっている。

以上